

文化人類学

概要

「文化」とは、「生活者としての人間の営み」そのものと言うことができる。私たちは日々、自然、モノ、そして他の人々等様々な対象に対して様々な形で働きかけ、そして様々な対象からの働きかけを様々な形で受け止めている。文化人類学とは、人間が日々行っている、対象への働きかけ方と対象からの働きかけの受け止め方を解きほぐしてゆくことを通して、「人間とは何か」を問うてゆく学問分野である。そこでこの授業では、「生活者としての人間の営み」、すなわち「歴史的・社会的存在としての人間の営み」に注目し、人間の多様性と普遍性を様々な切り口から見据えながら、「人間とは何か」について、受講生と共に考えてゆきたい。

担当教員	高橋 嘉代
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- 1)文化人類学の基礎概念を学び、理解する。
- 2)文化人類学の成り立ちを学ぶことを通して、近代社会の成立過程についての認識を深める。
- 3)人間の営みの多様性と普遍性について学ぶことを通して、自らのものの考え方と行動様式を相対化して捉える態度を身につける。

各回の内容

1. ガイダンス/人類学とははじめ・フィールドワークから得られるもの
2. 文化とはなにか：入学当初を思い出してみよう。
3. 人類学の歴史（1）：近代社会の光と影
4. 人類学の歴史（2）：みんなちがって、みんないい...?!
5. 言語と世界観：人はこれで、世界をつくる。
6. 「時間」とはなにか：持続し、分割されるもの
7. 「空間」とはなにか：広がり、閉ざされるもの
8. 神話と宗教：人と社会の青写真
9. 家族と親族（1）婚姻と産育
10. 家族と親族（2）血族と姻族
11. 「名付け」と社会化：自己紹介は他者にする
12. 贈与と交換：半沢直樹とわらしべ長者
13. ジェンダーとセクシュアリティ：「お金の管理」は誰がする？
14. 生業のあり方：身分から職業、そして
15. 儀礼と祭：戻らぬ時と巡る時
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

履修にあたり特別な専門知識は不要だが、日々の諸現象に改めて注目し、起きていることを観察しつつ「もしここが南半球だったらどうなるか」等の脳内知的実験も一日1回（1回あたりの所要時間の目安は20～30分程度）、可能であれば一日3回は是非行って欲しい。それがこの授業の予習であり復習である。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

期末試験（50%：配布資料および授業のノートに限り持ち込み可）+授業中の課題（20%：課題の内容は授業中に指示する）+中間レポート（30%：第8回授業の週を締切にする予定）=100点満点（100%）として評価する。

教科書

特になし。教員作成の配布資料を主に使用する。スライドや映像、その他の資料等も適宜参考資料として用いる。

参考文献

特になし。授業の知識を深めるのに有効な参考文献がある際には別途指示する。

文化人類学

概要

文化人類学IIでは、文化人類学Iで学習した内容をふまえて「生活者としての人間」が周囲の環境の変化にどのように対応しようとしていったのかという問いを中心に据えて、より応用的・現代的なトピックを取り上げたい。

20世紀の半ば以降、世界規模での政治体制の変化、産業構造の変化という文化変容が現れた。激動の時代の中で人々と社会は、先人から受け継いできた「ものごとの受け止め方・ものごとへの働きかけ方」をどのように適用し、作り替え、捨て去り、そして新しく構築しているかについて様々な切り口から見据えながら、「人間とは何か」という問いの先にあるものを、受講生と共に考えてゆきたい。

担当教員	高橋 嘉代
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- 1)文化人類学の基礎概念についての理解を深める。
- 2)人間と社会の多様性と普遍性を学ぶことを通して、現代社会の課題について考察する。
- 3)人間の営みの多様性と普遍性について学ぶことを通して、自らが持つ・自らが生きる社会における価値基準を相対化して捉える態度を身につける。

各回の内容

1. ガイダンス/文化人類学Iのふりかえり
2. コミュニティと「公共圏」：「なかま」と「みんな」
3. 多文化教育：実は今もその瞬間
4. 民族と国家：「出身」って何だろう
5. 政治の仕組みと「権利」：誰が決めるか・誰を決めるか
6. 移動・移民：働くことと生きること
7. 開発と「文化帝国主義」：どこでも食べられるあのメニューの影に
8. 都市と都市化：イチとマチ
9. 環境「問題」：日常生活の先にあるもの
10. 観光：あなたの非日常は私の日常
11. 災害：日常生活を喪失したとき
12. 生殖医療と文化：命はだれのもの？
13. 「障害」とはなにか：「生きづらさ」と環境、そして日常生活
14. 高齢者と「老いること」：憧れと不安の狭間
15. 病いの語り、死の語り：旅立ちの前に
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

履修にあたり特別な専門知識は不要だが、日々の諸現象に改めて注目し、起こっていることを観察しつつ「これが100年前の日本だったらどうか」等の脳内知的実験も一日1回（1回あたりの所要時間の目安は20～30分程度）、可能であれば一日3回は是非行って欲しい。それがこの授業の予習であり復習である。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

期末試験（50％：配布資料および授業のノートに限り持ち込み可）＋授業中の課題（20％：課題の内容は授業中に指示する）＋中間レポート（30％：第8回授業の週を締切にする予定）＝100点満点（100％）として評価する。

教科書

特になし。教員作成の配布資料を主に使用する。スライドや映像、その他の資料等も適宜参考資料として用いる。

参考文献

特になし。授業の知識を深めるのに有効な参考文献がある際には別途指示する。

戦後日本社会史

概要

本講義では、戦後日本社会史のうち、1945年～1980年代後半までの時期について学習する。この場合、「戦後（第二次世界大戦後）」、「米ソ冷戦」、「昭和」、の3つの観点から、「政治・外交」、「経済」、「社会・文化」分野の重要出来事に焦点を当てるものである。授業では、当時の映像資料等を積極的に活用したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1.戦後日本社会史（1945～1980年代後半）を理解する上で重要な出来事やキーワードについて説明できるようになる。2.戦後日本社会史（1945～1980年代後半）が今日に日本にとってどのような意義を持っているのかについて、自分自身の考えを持てるようになる。3.戦後日本社会史（1945～1980年代後半）の観点から、現在の日本が直面している重要問題について、自分なりの分析を行えるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明
2. 戦後日本の重要論点の整理
3. 日本国憲法の制定
4. 東京裁判と靖国神社
5. 自衛隊と日米安保
6. 戦後日本と沖縄
7. サンフランシスコ講和会議
8. 戦後の領土問題:北方領土、竹島、尖閣諸島
9. 高度経済成長と福島
10. 高度経済成長と福島
11. 「昭和」の社会・文化・流行
12. 「昭和」の社会・文化・流行
13. 「昭和」の社会・文化・流行
14. 「昭和」の社会・文化・流行
15. 授業のまとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在の世界と日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1.授業の際の課題を含む平常点（20％） 2.中間レポート（30％） 3.最終テスト（50％）

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

『昭和・平成史年表』平凡社 2009年
 細田正和、片岡義博『明日がわかるキーワード年表』細流社 2009年
 太田省一『アイドル進化論』筑摩書房 2011年
 中村政則、森武磨『年表昭和・平成史：1926～2011』岩波 2012年

戦後日本社会史

概要

本講義では、戦後日本社会史のうち1980年代後半から今日に至るまでの時期について学習する。この場合、「ポスト戦後」、「ポスト冷戦」、「平成」の3つの観点から、「政治・外交」、「経済」、「社会・文化」分野の重要出来事に焦点を当てるものである。

授業では、当時の映像資料等を積極的に活用したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 戦後日本社会史（1980年代後半～）を理解する上で重要な出来事やキーワードについて説明できるようになる。
2. 戦後日本社会史（1980年代後半～）が今日の日本にとってどのような意義を持っているのかについて、自分自身の考えを持てるようになる。
3. 戦後日本社会史（1980年代後半～）の観点から、現在の日本が直面している重要問題について、自分なりの分析を行えるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明
2. 米ソ冷戦、ポスト冷戦、平成：重要論点の整理
3. バブル景気の発生と崩壊
4. バブル景気の発生と崩壊
5. 米国同時多発テロと日本
6. 米国同時多発テロと日本
7. リーマン・ショックと日本
8. リーマン・ショックと日本
9. 「平成」の社会・文化・流行：若者
10. 「平成」の社会・文化・流行：若者
11. 「平成」の社会・文化・流行：ファッション
12. 「平成」の社会・文化・流行：ファッション
13. 「平成」の社会・文化・流行：言葉
14. 「平成」の社会・文化・流行：言葉
15. 授業のまとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在の世界と日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1. 授業の際の課題を含む平常点（20％）
2. 中間レポート（30％）
3. 最終テスト（50％）

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

- 『昭和・平成史年表』平凡社 2009年
 細田正和、片岡義博『明日がわかるキーワード年表』彩流社 2009年
 太田省一『アイドル進化論』筑摩書房 2011年
 中村政則、森武磨『年表昭和・平成史：1926～2011』岩波 2012年

現代の国際関係

概要

本講義では、「3.11（東日本大震災・福島第一原発事故）」以後の日本を取り巻く国際情勢について学習する。この場合、「転換期を迎えた世界」と「3.11の被災地福島」との関連性に焦点を当てるものである。「国際関係」はとらえにくい学習対象であるが、政治、経済、外交、安全保障分野の基礎知識のない学生にも配慮しつつ、講義を行う。また、学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めている時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 「転換期を迎えた世界」を理解する上で重要なデータとキーワードについて、説明ができるようになる。
2. 「転換期を迎えた世界」と「3.11の被災地福島」がどのようにつながっているのかについて、自分自身の考えを持てるようになる。
3. 現在関心を集めている国際問題について、自分なりの分析が行えるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明
2. 「転換期を迎えた世界」の考察枠組み
3. データとキーワードでとらえる転換期世界
4. データとキーワードでとらえる転換期世界
5. より良い世界の実現に向けた取り組み
6. より良い世界の実現に向けた取り組み
7. 東日本大震災・福島第一原発事故：グローバルな次元
8. 東日本大震災・福島第一原発事故：グローバルな次元
9. 世界と福島をつなぐ視点1：ビジネス
10. 世界と福島をつなぐ視点1：ビジネス
11. 世界と福島をつなぐ視点2：若者・文化
12. 世界と福島をつなぐ視点2：若者・文化
13. 世界と福島をつなぐ視点3：観光
14. 世界と福島をつなぐ視点3：観光
15. 授業のまとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在の世界と日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1. 授業の際の課題を含む平常点（20%）
2. 中間レポート（30%）
3. 最終テスト（50%）

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

自学自習に有益なインターネット・サイトは、以下の通りである。

首相官邸：<http://www.kantei.go.jp>

外務省：<http://www.mofa.go.jp/mofaj>

総務省統計局統計センター：<http://www.stat.go.jp/data/guide/index.htm>

現代の国際関係

概要

本講義では、転換期を迎えたアジアの最新事情について学習する。この場合、「転換期を迎えたアジア」と「今、ここにいる自分」との関連性に焦点を当てるものである。多くの学生にとって「アジア」はとらえにくい学習対象であるが、授業では、現地調査の際の写真やエピソード、街角で見つけた不思議なグッズなども紹介したい。また、学生の学習意欲を高めるため、新聞やニュースで注目を集めているアジアに関連する時事問題の解説にも十分な時間を取りたいと考えている。

担当教員	吉高神 明
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

本講義の受講生に期待される到達目標は以下の通りである。

1. 「転換期を迎えたアジア」を理解する上で重要なデータとキーワードについて、説明ができるようになる。
2. 「転換期を迎えたアジア」と「今、ここにいる自分」がどのようにつながっているのかについて、自分自身の考えを持てるようになる。
3. 現在関心を集めているアジアに関連した時事問題について、自分なりの分析が行えるようになる。

各回の内容

1. 授業の説明
2. 「転換期を迎えたアジア」の考察枠組み
3. シンガポール：多民族国家の素顔
4. マレーシア：多民族共存とイスラム・アイデンティティのはざまで
5. ベトナム：内憂外患に直面する親日国家の苦悩
6. カンボジア：内戦の悲劇と世界遺産と共に
7. タイ：親日国家の希望と苦悩
8. ラオス：ASEAN唯一の内陸国の素顔
9. インドネシア：世界最大のイスラム国家はどこに行くのか？
10. フィリピン：安定成長を続けるリゾート・アイランド
11. ミャンマー：アジアの「最後のフロンティア」のゆくえ
12. インド：ICT立国を目指す潜在的超大国のゆくえ
13. バングラデシュ：NGO/NPOが支える公共セクター
14. ネパール：大地震（2015年4月）からの復興
15. 授業のまとめ
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

ニュースや新聞等を通じて、現在のアジアと日本が直面している重要問題について、一定の知識を有しておくことが望ましい。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

以下の3つの基準に基づいて、最終的な成績を決定する。

1. 授業の際の課題を含む平常点（20%）
2. 中間レポート（30%）
3. 最終テスト（50%）

教科書

教科書は使用しない。授業の際に、プリントを配布する。

参考文献

自学自習に有益なインターネット・サイトは、以下の通りである。

首相官邸：http://www.kantei.go.jp

外務省：http://www.mofa.go.jp/mofaj

総務省統計局統計センター：http://www.stat.go.jp/data/guide/index.htm

社会調査法入門

概要

「調べる」の意味を辞書で引くと、「わからないこと、あるいは不確かなことについて、色々な方法を用いてたしかめる」とあるように、社会調査と一口に言っても様々な方法があるのがわかる。例えば、政府や報道機関が行っている「世論調査」これは「量的調査」の代表例だ。一方、調査員が「見たり」「聞いたり」することによって、調査対象の感情や特性などを抽出する「質的調査」あるいは「定性調査」と呼ばれる社会調査もある。本講義では、こうした様々な調査がどのような場面で用いられるかを学ぶと同時に、具体的事例にもとづき「調査」を行い、その結果を分析して発表するまでのスキルを身につける。調べる楽しさを味わいながら、社会に出てから役に立つ武器を手にしてもらいたい。

担当教員	桶田敦
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

様々な調べ方とデータの種類を理解する
 調査計画を立案し、計画に沿って実地に調査を行う
 得られた調査結果を分析し、人前で発表するスキルを身につける

各回の内容

1. オリエンテーション：「調べる」とはどういうことか
2. 社会調査 量的調査とは
3. 社会調査 量的調査の具体例を学ぶ
4. 社会調査 質的調査とは
5. 社会調査 質的調査の具体例を学ぶ
6. 社会調査を行うにあたっての準備と心構え
7. 調査の立案計画と準備（グルーピング）
8. 調査計画案発表（班ごと）
9. 調査計画案修正作業
10. プレテスト実施
11. 調査計画を完成させる
12. 調査実施
13. 調査実施
14. 調査結果分析
15. 結果まとめとデータの可視化
16. テスト 研究結果発表

準備学習（予習・復習等）

履修に際して特別な知識は要しないが、授業の後半はアクティブラーニングを用いた実践的なものになるだけでなく、班に分かれての協業になるので、メンバー間での意思の疎通を良くしておく必要がある。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

最終テストとなる研究発表が50%、中間の調査計画案発表が30%および講義へのコミットメントが20%を総合的に判断する。

教科書

『実地調査入門 - 社会調査の第一歩』慶應義塾大学出版会
 その他必要な資料がある場合は、授業中に配布する。

参考文献

特になし。別途、更に深い知識を得るための参考文献がある場合は、別途教授する。

公共政策論

概要

現代社会の諸問題、それに対する政策や政策決定プロセス、NPOの取り組み等について学ぶ。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	2年後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

社会保障、環境など現代社会の諸問題やそれらに対する政策等に対する理解を深め、社会とのかかわり方について考える。

各回の内容

1. 公共問題とは何か
2. 現代社会の諸問題（1）
3. 現代社会の諸問題（2）
4. 現代社会の諸問題（3）
5. 政策プロセス（問題の発見）
6. 政策プロセス（解決案の設計）
7. 政策プロセス（政策の決定）
8. 政策プロセス（政策の実施）
9. 政策プロセス（政策の評価）
10. 日本の財政
11. 新しい公共（1）
12. 新しい公共（2）
13. 新しい公共（3）
14. 現代社会の諸問題とNPOの取り組み（1）
15. 現代社会の諸問題とNPOの取り組み（2）
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、理解度の確認等を目的に、レポートの提出を求める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 60%、レポート 40%

教科書

使用しない。

参考文献

必要に応じ、紹介する。

企業論

概要

現代社会において重要な位置を占める企業について、様々な観点から理解を深める。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

企業の社会的役割・存在意義について理解できる。

各回の内容

1. 企業とは
2. 企業の特徴
3. 企業の分類
4. 株式会社の特徴と仕組み
5. コーポレート・ガバナンス
6. 企業の役割
7. 企業をみる様々な観点
8. 様々な企業観(1)
9. 様々な企業観(2)
10. 様々な企業観(3)
11. 様々な企業観(4)
12. 様々な企業観(5)
13. 日本的経営論
14. 企業の国際化
15. 現代社会と企業
16. 試験

準備学習(予習・復習等)

各回の授業の最後に予習内容を示す。授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、理解度を確認するため、確認テストを実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

試験 60%、確認テスト 40%

教科書

使用しない。

参考文献

必要に応じ、紹介する。

ビジネス実務総合演習

概要

実践キャリア実務士の必修科目

実践的なビジネス実務のスキルを習得するために、大きく4つの実践的課題をグループごとに解決していく。その課題を達成するための内容を、グループディスカッションを通して整理し、実際に行い、評価をして、さらなる向上のための対策案を立案する。

担当教員	加藤竜哉他
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	CE2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ビジネスの各シーンで、「分かる」から「できる」を目指す。
 グループディスカッションで、課題の整理 対応の検討 実施と評価 次回への改善点を整理できる。
 1年後期で学習した、ビジネスコミュニケーション能力の9つのスキルを活用し、改善への指針を作成できる。
 自己評価ルーブリックを自ら作成し、提出できる。

各回の内容

1. オリエンテーション、課題の提示、ルーブリック評価について
2. 課題1：会議の準備を行う（1）今までの学習を踏まえて考える。（ディスカッション有）
3. 課題1：会議の準備を行う（2）新たな視点で考える。（ディスカッション有）
4. 課題1：会議の準備を行う（3）汎化をおこなう（ディスカッション有）レポート課題提示
5. 自己のコンピテンシーチェック（PROGの実施）と対策案作成について
6. 課題2：研修期間中のコミュニケーションとPDCA（1）（ディスカッション有）
7. 課題2：研修期間中のコミュニケーションとPDCA（2）（ディスカッション有）
8. 課題2：研修期間中のコミュニケーションとPDCA（3）（ディスカッション有）レポート課題提示
9. PROGの返却と、過去のPROG結果との比較から対策案の立案
10. 課題3：他者の視点で物事を捉える1【制服着用】
11. 課題3：他者の視点で物事を捉える2（ディスカッション1）
12. 課題3：他者の視点で物事を捉える3（ディスカッション2）レポート課題提示
13. 課題4：企業経済，経営と社員の在り方1（ディスカッション）
14. 課題4：企業経済，経営と社員の在り方2（ディスカッション，発表準備）
15. 課題4：企業経済，経営と社員の在り方3（発表と総合ディスカッション，発表資料の提出）
16. 最終課題作成とルーブリック評価

準備学習（予習・復習等）

事前学習：各課題ごとの事前回答の準備と作成。

事後学習：各回の振り返り記述と提出、各課題のレポート作成と提出

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り（各回2点×15回）= 30%、4つの課題のレポートなど作成（各回5点×4回）= 20点、自己評価ルーブリックの作成と提出 = 50点

教科書

ビジネス実務 および のテキスト、本学配布のキャリアハンドブック、1年次の各種診断結果、資料を都度配布
 PROGの解説書

参考文献

その都度、授業で紹介する。

カウンセリング演習

概要

事例検討とロールプレイを丁寧に積み重ね、カウンセリングプロセスを実践的に学ぶ。尚、受講者にはグループ演習に対する自発的かつ積極的な参画と、対話と傾聴を中心とするコミュニケーションスキルが求められる。

担当教員	後藤 真
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

カウンセリングの基礎理論を理解し、演習を通して基本的なカウンセリング技術および対話の技法を身につける。

各回の内容

1. カウンセリングの意義
2. カウンセリング理論
3. カウンセリングプロセスと事例
4. カウンセリング演習 環境設定と「場」づくり
5. カウンセリング演習 「聴く」と「伝える」
6. カウンセリング演習 関わりのプロセスと自己分析
7. 「効果的」なカウンセリング
8. 傾聴の意義と技術
9. 事例分析の技術
10. ロールプレイ：事例1 思春期
11. ロールプレイ：事例2 青年期前期
12. ロールプレイ：事例3 青年期後期
13. 質問技法とフィードバック
14. カウンセラーの倫理とカウンセリングマインド
15. ライフデザインとカウンセリング ～「わかる」から「できる」へ～

準備学習（予習・復習等）

授業で配布される自主学習ワークシートに取り組む。また、関連するニュースに関心を持つ。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

メンタルヘルスマネジメント

概要

現代社会におけるメンタルヘルスクエアについての基礎知識を習得する。セルフケア、ストレスマネジメント、ストレスコーピング等について具体的事例を通して学習する。

担当教員	後藤 真
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ストレス理論を中心としたメンタルヘルスクエアの基礎知識を学ぶ。ストレスコーピングスキルを身につけ、予防的観点から日常生活に応用することができる。

各回の内容

1. 導入：メンタルヘルスクエアの意義
2. 若者を取り巻く環境
3. 変化と適応のメンタルヘルス
4. 思春期～青年期のストレス
5. こころとカラダの不調
6. ストレスコーピングスキル 認知
7. ストレスコーピングスキル 感情
8. ストレスコーピングスキル 意志・行動
9. 心身の健康管理とカウンセリング
10. 演習：事例検討 思春期
11. 演習：事例検討 青年前期
12. 演習：事例検討 青年後期
13. 演習：事例検討 発達と環境適応
14. 「私」をケアするライフデザイン
15. セルフケアからトータルケアへ

準備学習（予習・復習等）

授業で配布される自主学習ワークシートに取り組む。また、関連するニュースに関心を持つ

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

なし

参考文献

上田紀行「生きる意味」岩波新書
他、その都度、授業で紹介する

リスクコミュニケーション論

概要

システムの安全・安心とリスクに視座し、情報を疑う力、検証する力を養うと共に、リスク認知の視点から、リスクコミュニケーションを学ぶ。食料品・BSE問題・交通事故・医療問題・原発問題など身の回りにある諸問題を取り上げ、具体的にリスクとあるべきコミュニケーションを思考し、社会の安全について教養を深める。意思決定の極性化が蔓延する現代において、どのようにして信頼社会を築くのかを、相互ディスカッションを通して思考する。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

リスクに関する基礎的な用語について自分の言葉で話すことや書くことができる。
 複眼的・多角的視野からものごとを捉えることができる。
 リスクコミュニケーションの諸問題について、自分の言葉で書くことができる。

各回の内容

1. 安全と安心の構図
2. リスクコミュニケーションとは？
3. 風評被害を考える
4. 人・リスク・事故
5. 天然と自然？
6. リスク認知とリスク判断
7. リスクの伝え方と風評被害
8. リスクコミュニケーションとは
9. 身の回りの諸問題とリスク
10. リスク行動
11. 報道を読み込む：食品
12. 報道を読み込む：原発
13. リスクと共存
14. 情報共有と対話
15. グラフを読み取る眼、まとめ

準備学習（予習・復習等）

事前学習：必ず指示されたテキストのページを読み込み、質問を考え、整理しておく。
 事後学習：レポート作成、学習内容に関する情報をWeb検索する

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り（各回5点満点×15回を100%とし、30%換算する）レポート作成（期末レポート含）70%

教科書

唐木 英明著、『不安の構造 リスクを管理する方法』, エネルギーフォーラム, 2014

参考文献

渡辺悦生, 大熊廣一共著, 『リスクと共存する社会』, 養賢堂, 2017
 他, 都度授業で紹介する。

コミュニケーションスキルズ

概要

This is a course for students who would like to travel to foreign countries in the future. We will practice the skills needed to have an enjoyable experience abroad. This course will be conducted in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教育学科2年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

目標

We will practice conversation skills needed to travel abroad and discuss various situations one may encounter in another country. Students will perform role plays using the skills learned in class. Students will also give presentations in English.

各回の内容

1. Introduction
2. Unit 1 Would you like chicken or fish?
3. Unit 2 Can I have your passport, please?
4. Unit 3 My mother has her own business.
5. Unit 4 Can I check my e-mail?
6. Unit 5 Are you ready to order?
7. Destination: The U.K.
8. Midterm Review
9. Unit 6 Where's the station?
10. Unit 7 Can I use my card in this ATM?
11. Unit 8 Do you have a non-smoking room?
12. Unit 9 I have a stomachache.
13. Unit 10 I'm from Japan.
14. Destination: New Zealand
15. Final Review
16. Final Discussion

準備学習（予習・復習等）

Complete the homework sheets for each unit in the course. Study the vocabulary and finish the listening activities for the following unit before the next class.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Midterm Review 20%、Final Review 20%、Weekly Homework 15%、Vocabulary Quizzes 15%、Presentation 20%、Class Participation 10%

教科書

『Passport: 2nd Edition (Level 1)』 Oxford University Press

参考文献

コミュニケーションスキルズ

概要

This is a continuation of "Communication Skills I." Students will practice many situations that they may encounter abroad. This class will be conducted in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

目標

We will learn necessary vocabulary and conversation skills needed when visiting a foreign country. Students will also perform role plays using the skills learned in class. Students will also give presentations in English.

各回の内容

1. Introduction
2. What time does it start?
3. Have you been to the islands?
4. I really like rugby!
5. Where should we meet?
6. How about 400 baht for two?
7. Destination: Thailand
8. Midterm Review
9. I'd like to send this to Japan, please.
10. We're staying five more days.
11. I lost my bag!
12. Which bus goes to the airport?
13. What did you like best?
14. Destination: Ireland
15. Final Review
16. Final Discussion

準備学習（予習・復習等）

Complete the homework review sheets every week. Study the vocabulary words and do the listening activities for the next unit before the following class.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Midterm Review 20%, Final Review 20%, Weekly Homework 15%, Vocabulary Quizzes 15%, Presentation 20%、Class Participation 10%

教科書

Passport 1: 2nd Edition, Angela Buckingham and Lewis Lansford, Oxford University Press

参考文献

上級リーディング

概要

編入試験および外部検定試験に対応できる英文読解力を養うとともに、実践的コミュニケーション能力を高める。

担当教員	佐藤純子
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

編入試験および外部検定試験に対応できるような英文読解力を身につける。
場面別で使用される英語の言い回し、および言い回しを使用するための技術について知る。
上記の英語についての聴解力を向上させる。

各回の内容

1.	オリエンテーション / Making Contact I
2.	Socializing / Making Contact II
3.	Getting to Know You
4.	Dining Out
5.	Communication / Can I Ask Who Is Calling, Please?
6.	Let's Stick to the Schedule
7.	Tell Us about Yourself I
8.	中間まとめ Tell Us about Yourself II
9.	Meetings / Could We Meet Next Week?
10.	Can I Make a Point Here?
11.	I'm Not Sure I Agree
12.	Presentations / Today's Topic Is...
13.	To Sum Up
14.	Any Questions?
15.	Review

準備学習（予習・復習等）

予習）教科書の指定された箇所の問題に答えておくこと
復習）宿題に取り組むこと、およびテストの対策を十分に行うこと

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

小テスト 20%
宿題 10%
試験 60%
出席・参加態度 10%

教科書

「Interactive Business English On DVD」成美堂

参考文献

特にないが、積極的に英語に触れる機会を作ること

上級リーディング

概要

英語長文読解力を養うとともに、その背景にある文化を取り巻く諸問題について自分の見識から読み進めることを学ぶ。異文化理解に関する基本的な理念について理解し、その知識をもとに身近な事柄について考察する力を養う。

担当教員	高橋未希
授業形態	演習・講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年生
時間数	1
単位数	2

目標

異文化理解に関する英文を理解することができる。

異文化理解を行ううえで必要な理念や原則、用語について理解できる。

世界情勢を把握することで教養を高め、異なる意見を受け止め、自分の意見を発信することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. Culture and Identity
3. Stereotypes
4. Perception
5. Values
6. Deep Culture
7. Cultural Understanding Activities
8. Words, Words, Words
9. Communication Without Words
10. Communication Styles 1
11. Communication Styles 2
12. 異文化理解に関するプレゼンテーション
13. 異文化理解に関するプレゼンテーション
14. 異文化理解に関するプレゼンテーション
15. 総括

準備学習（予習・復習等）

学習した新出用語に関して、指示された課題を毎時間行うこと。

自主的に海外情勢に目を向け、国際問題や日本と海外との関係に対して意識を向け、身近なものとして理解を深めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

出席・参加態度10% まとめレポート40% 小レポート20% 時事問題に関するプレゼンテーション30%

教科書

Different Realities - Adventures in Intercultural Communication - (南雲堂)

参考文献

授業の中で適宜指示を行う。

異文化理解

概要

This course will talk about culture, language, and communication in a global society. We will also discuss practical communication skills to deal with many cultures in the world. This class will be in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

Students will learn about various non-verbal and verbal types of communication. Differences in cultural communication styles will also be discussed. The last half of the course will talk about stereotypes, prejudice, and discrimination. Learners also will give a presentation in English about a nationality of their choosing.

各回の内容

1. Introduction
2. Facial Communication and Eye Contact
3. Gestures and Body Movement
4. Space and Distance
5. Gender and Communication Style
6. Self-Assertiveness
7. Midterm Review
8. Barriers to Communication: Stereotypes
9. Barriers to Communication: Stereotypes
10. Barriers to Communication: Stereotypes
11. Barriers to Communication: Prejudice
12. Barriers to Communication: Prejudice
13. Barriers to Communication: Discrimination
14. Barriers to Communication: Discrimination
15. Barriers to Communication: Discrimination

準備学習（予習・復習等）

Learn the necessary vocabulary for each chapter and listen to the audio CD to practice reading. After each chapter, complete the comprehension questions.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Writing homework 30%, Oral presentation 20%, Midterm Review 20%, Vocabulary Quizzes 20%, Class Participation 10%

教科書

『Beyond Boundaries: Insights into Culture and Communication』, Cecilia Ikeguchi and Kyoko Yashiro, ピアソン・ロングマン

参考文献

「The Culture Map」 Erin Meyer, Public Affairs

観光英語

概要

観光英語検定とは国際人としての英語力を身につけることを目的とし、外国人とのコミュニケーション力を観光の分野を通してその運用能力を計るものである。約5,000語の語彙力・適切な文法・構文の知識が必要とされ、実用英語検定2級に相当する。ここでは旅行者として、また観光業で用いられる一般的な英会話表現及び専門用語を学び、観光英語検定2級取得を目指す。観光英語 の単位取得者が望ましい。

担当教員	佐藤夏美
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

予約関連業務、ホテル関連業務、出入国に関する手続き、機内放送等のアナウンス、食事、通貨、交通機関等、観光・旅行業に必要となる専門的な単語および英語による日常会話ができる。リスニングやロールプレイングを通して実際の場面を想定し、英語でのコミュニケーションができる。観光に必須の文化（国内外・異文化）、地理、歴史の知識を深める。

各回の内容

1. レベルチェックテスト（観光英語検定過去問題）
2. Travel information
3. At the airport
4. Hotel
5. Dining
6. Asking and giving directions
7. Buses and trains
8. Mailing and money exchange
9. Review 1
10. Sightseeing 1
11. Sightseeing 2
12. Problems and complaints
13. Tour conductor duties
14. Sightseeing in Japan
15. Review 2
16. 試験

準備学習（予習・復習等）

テキストを予習し、新出単語及び表現を確認しておく。ユニット毎の単語テストに備え、継続的に学習する。リーディング問題と講義で指示がある部分については自己学習とし、模範解答で知識を確認する。英作文の添削を希望する場合は随時提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

単語テスト20%、中間確認テスト30%、学期末テスト30%、課題20%
 (各テストは講義で返却、解説をする。学期末テストは、実施後に模範解答で確認とする。)

教科書

全国語学ビジネス観光教育協会・観光英検センター編『ENGLISH FOR TOURISM intermediate』三修社

参考文献

その都度紹介する。

TOEIC演習

概要

This course will focus on the Reading section of the TOEIC test. Tips for increasing the student's score will be discussed in detail. Mini tests also will given in each lesson. This class will be in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

The student will learn necessary vocabulary and grammatical structures found in the Reading section of the TOEIC test. The goal is to improve one's overall score for the summer in-school TOEIC test.

各回の内容

1. Course Introduction
2. TOEIC Reading Test (1)
3. TOEIC Grammar
4. TOEIC Grammar
5. TOEIC Vocabulary
6. TOEIC Vocabulary
7. Part 5 (Try it Out / Steps to Success)
8. Part 5 (Review)
9. Part 6 (Try it Out / Steps to Success)
10. Part 6 (Review)
11. Part 7 (Try it Out / Reading for Main Ideas)
12. Part 7 (Reading for Detail / Making Inferences)
13. Part 7 (Steps to Success)
14. Part 7 (Review)
15. TOEIC Reading Test (2)

準備学習（予習・復習等）

Learn the necessary vocabulary for each lesson and complete the grammar worksheets.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Reading Test improvement 30%, In-class work and mini-tests 30%, Vocabulary Quizzes and Grammar sheets 30%, Class participation 10%

教科書

『Pass the TOEIC Test - Intermediate Course』 First Press ELT

参考文献

情報リテラシー

概要

共通教育の「情報演習」よりも、さらに実践的な情報リテラシーを学習する。卒業後企業や編入先の環境を思考すると、情報検索能力、作業効率性向上、現状のICT環境の理解等のスキルは、今や必ず獲得しなければならないスキルである。これら3つのスキルを中心に、自ら思考し活用できる力を養う。

授業以外に自学・自習する時間が必要です。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	演習
学期	2年前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- 1) インターネットを使って、与えられた情報検索課題を、自ら解くことができる。
- 2) 実務で素早く業務を遂行するために、与えられたアプリケーションの操作方法を改善することができる。
- 3) 卒業論文作成に必要な機能を実際に利用できる。
- 4) 企業での利活用を想定した、総合実技問題を完成させることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション：全体の流れと学習方法（従来の検索や操作を振り返る）
2. より高度な情報検索・収集の目的と情報源
3. 近道を学ぶ（1） ミニテスト有
4. 近道を学ぶ（2） 課題有
5. 情報の取扱と実務検索演習と課題
6. 作業効率を考える：Excel操作の改善と演習（1）
7. 作業効率を考える：Excel操作の改善と演習（2） 課題有
8. 実務利活用を考える：Excel操作の改善と演習（1）
9. 実務利活用を考える：Excel操作の改善と演習（2） 課題有
10. 実務利活用を考える：Excel操作の改善と演習（3） 課題有
11. 実務利活用を考える：Word操作の改善と演習（1） 課題有
12. 実務利活用を考える：Word操作の改善と演習（2）
13. 実務利活用を考える：WordとPowerPointの連携 課題有
14. 総合実技演習（1）
15. 総合実技演習（2） 期末課題有

準備学習（予習・復習等）

『事前学習』次回の内容の事前調査

『事後学習』学習の振り返りと弱点補強、課題の作成、操作の習得
関連書籍などにより主体的に教養を高めること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り（各回5点×15回を20%換算）、情報検索ブロック課題等20%、コンピュータスキルズ30%、期末課題30%

教科書

なし。
適宜プリントやデジタル資料を配布

参考文献

都度紹介する。

キャリア教養特講

概要

地球上あちこちでも、日本あちこちでもイベントは365日に渡って行われている。歴史性が強いもの、地域性が強いもの、多世代交流を主眼にしているもの、多くの機関が連携しているものなど、その性質と目的は多種多様である。ならば、なぜイベントがあるのだろうか。

この授業は、イベントそのものを自ら企画し、実践していくプロジェクト型アクティブラーニングである。この学びを通して、イベントの意義を探究していくとともに社会人に必要な多様な力を育むものである。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

一つのプロジェクトを達成するためには、自らの知識を有機的に融合させながら他者と共に立体的に組み立てていくことが重要となる。他者とのコミュニケーション、折り合いをつけること、発信力、傾聴力、行動力、計画力とタイムマネジメント力などを涵養し、社会人になっても学び続ける力を修得することが授業の目標である。

各回の内容

1. イベントは何のために行うのか
2. イベントの多様な形態～地域への視野の拡張～
3. ゴールイメージの重要性
4. チームワークと巻き込み力～失敗例と成功例～
5. 実施会場の視察
6. 実施計画書の作成1～イベントテーマを考える～
7. 実施計画書の作成2～アイデアの拡張と焦点化～
8. 実施計画書の作成3～チーム分割の必要性和重要性～
9. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし1～タスクの洗い出し～
10. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし2～タイムマネジメント～
11. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし3～チームマネジメント～
12. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし4～リスクマネジメント～
13. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし5～俯瞰力と動態表作成～
14. イベントの実施～地域活性と自己変容を目指して～
15. イベントの意義探し～振り返りにかえて～

準備学習（予習・復習等）

できるだけ多くのイベントを調べ、その意義を自ら考える。またボランティア活動をも含めて、多様なイベントに参画する。さらに、復興に関する新聞記事やニュースへアンテナを立てておくこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

チームワークへの態度30%、振り返りシートの記述内容20%、最終レポート50%

教科書

なし

参考文献

・溝上 慎一・成田 秀夫(編)『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』東信堂、2016年。

特別研究 言葉と文化・人

概要

言語そのものまたは言語に関連する文化的・社会的・人間発達のな要素を交えながら言語学についての広い見識を獲得し、思考を深めることを目的とする。身近な事象に対する視点を言語学的見地から考察し、それぞれのテーマからより深い研究を行い、論文を執筆していく。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

自ら関心を持ったテーマを選んで卒業論文を仕上げることができる。第二言語習得や英語教育、言語政策論、社会言語学、日本語教育などの分野から自由にテーマを選び、知識と考察を深めることでそれぞれの考察を論証する。

各回の内容

1. オリエンテーション	研究とは何か、論文を書くということは何をするのか。 / 言語学とは何か
2. 文献購読・発表	
3. 文献購読・発表	
4. 文献購読・発表	
5. 文献購読・発表	
6. 文献購読・発表	
7. 文献購読・発表	
8. 研究テーマの見つけ方	
9. 文献を探す方法	
10. 調査の方法	
11. テーマの絞り込み	
12. 論文指導	
13. 論文指導	
14. 論文指導	
15. 論文指導	
16. 中間発表	
17. 中間発表	
18. 論文指導	
19. 論文指導	
20. 論文指導	
21. 論文指導	
22. 論文指導	
23. 論文指導	
24. 最終報告	
25. 論文集作成	
26. 論文集作成	
27. 論文集作成	
28. 特別研究発表会準備	
29. 特別研究発表会準備	
30. 特別研究発表会	

特別研究 言葉と文化・人

準備学習（予習・復習等）

関連する文献や資料を主体的に検索し、理解した内容を要約して記録すること。演習では、自分だけではなく他の学生が発表した内容も自分の知識として学びとることを心がけ、ディスカッションには積極的に参加すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎週の取り組み姿勢30%（レジュメの内容、発言など）
論文60%、
授業への積極的参加態度10%

教科書

必要に応じ演習内にて資料等を配布する。

参考文献

各自のテーマに関連したものを適宜演習内にて指示する。

特別研究 経済・経営

概要

経済、企業等の経営、業界動向に関することをテーマとした研究を行う。研究を通して、経済、企業経営等に関する見識を深める。

担当教員	山野実
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

自らの研究・他の学生の研究成果により、経済、企業経営等に関する知識や見識を広める。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 論文について
3. 調査研究の進め方
4. テーマ(案)・研究計画の発表
5. 調査研究(1)
6. 調査研究(2)
7. 調査研究(3)
8. 調査研究の進捗状況の発表
9. 調査研究(4)
10. 調査研究(5)
11. 調査研究(6)
12. 中間発表準備
13. 中間発表(研究テーマと論文の構成)(1)
14. 中間発表(研究テーマと論文の構成)(2)
15. 中間発表(研究テーマと論文の構成)(3)
16. 論文作成、助言・指導(1)
17. 論文作成、助言・指導(2)
18. 論文作成、助言・指導(3)
19. 論文作成、助言・指導(4)
20. 中間発表準備
21. 中間発表(1)
22. 中間発表(2)
23. 論文作成、助言・指導(5)
24. 論文作成、助言・指導(6)
25. 論文作成、助言・指導(7)
26. 論文作成、助言・指導(8)
27. 最終発表準備
28. 最終発表(1)
29. 最終発表(2)
30. 最終発表(3)

特別研究 経済・経営

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に次の授業までの課題を示す。また、各自復習することを基本とするが、必要に応じてレポート作成を求めることがある。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

論文・最終発表（論文の構成・内容、表現力など）100%

教科書

必要に応じ、レジюмеや資料を配布する。

参考文献

各自の研究テーマに応じ紹介する。

特別研究 情報と人・心理

概要

【情報と人・心理】

加藤ゼミのテーマは、情報と人です。情報と人との関わり、人と人とのコミュニケーション問題、ICT機器使用時のコミュニケーション、ネット空間コミュニケーション、リスクコミュニケーション、ネット空間の様々な課題、情報を取り扱う人の心理・心の問題、さらにはITの未来、情報スキルを上げるために何かを作りたい、原発・放射線に関する事、家庭の電気に関する事などが研究テーマです。単に調査して論文を記述するだけではなく、希望者は、実験や制作も対象として論文を執筆する。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

私たちの生活に溢れる情報、その情報と関わりあうときの心理的側面・科学的側面を研究する。安全・安心、webサイトの未来、ICT機器全般（スマホ含む）、eラーニングコンテンツ作成、情報の光と影、ニセ科学(未科学、間違い科学等)、再生医療、高齢化、遠婚、食生活とweb、ITと個の力など、生活の情報資源を心理学的視点や科学的視点から捉え研究します。（一人ひとり必ず指導を受け、教員より承認済み論文を提出できる）

時間数では全く足りないので、授業時間外での学習は必須です。専用のSNSも使用します。

各回の内容

1. オリエンテーションと1年間の研究について
2. 情報と人・心理：テーマ概要と1年間の進め方、SNSサイト登録
3. 論文を書く前に（1）：論文とは？先輩の論文から学ぶ
4. 論文を書く前に（2）：論文の形式と引用・参考、図表の作り方
5. テーマのダウンサイジング
6. 研究計画を作る 提出
7. テーマ発表と質疑応答 提出
8. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（1）
9. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（2）
10. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（3）
11. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（4）
12. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（5）
13. 前期中間発表準備（1）
14. 前期中間発表（グループ1） 提出
15. 前期中間発表（グループ2） 提出
16. 論文構成をマインドマップで作成する 提出
17. 論文作成と指導・助言（1）
18. 論文作成と指導・助言（2）
19. 論文作成と指導・助言（3）
20. 論文作成と指導・助言（4）
21. 論文作成と指導・助言（5）
22. 後期中間発表（グループ1） 提出
23. 後期中間発表（グループ2） 提出
24. 論文作成と指導・助言（6）
25. 論文作成と指導・助言（7）
26. 論文作成と指導・助言（8）
27. 論文作成と指導・助言（9）
28. 論文発表（グループ1） 提出
29. 論文発表（グループ2） 提出
30. 発表会の準備

特別研究 情報と人・心理

準備学習（予習・復習等）

1年後期のアカデミックスキルで作成した論文概要や各自のダウンサイジング資料を読み返しておく。

「残念ながらその文章では伝わりません」を春休み中に読破し、「できない」「できるつもり」「できる」ことを明確にしておく 2年次第1回目でディスカッション実施

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の振り返り10% 中間発表20%、論文提出と発表70%

教科書

2018年度は、1年次のゼミ決定時に各自購入 事前学習用

山口拓朗, 残念ながらその文章では伝わりません, 大和書房, 800円(税込)

参考文献

各自の研究テーマに関する文献を含めその都度、授業で紹介する。

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 2009

特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり

概要

「生涯学習」を軸とする研究を行う。学ぶとは何かを追究することで、知と知、知と人、人と人、人と地域という様々なつながりの重要性、財産性、そしてその魅力を明らかにする。教育学、心理学、社会学、地域づくりをテーマにすることが多いが、生涯学習そのものが広い概念のため、多様かつ多角的なテーマ設定が可能なのが特徴。高等教育機関における学びの集大成のため、卒業論文執筆に向けて、真摯に、丁寧に指導していく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

“いつでも・どこでも・だれでも”自己実現可能な生涯学習社会を構築するためには、いかなることが必要なのか。また私たちには何ができるのか。その可能性を、研究を通して理解し追究できる力を身につけ、卒業論文を仕上げることを本授業の目標とする。

各回の内容

1. オリエンテーション（一人一研究論）
2. 論文をなぜ書くか
3. 生涯学習概論
4. 生きがい論について
5. コミュニティとは
6. 連携論と地域づくり1
7. 連携論と地域づくり2
8. 研究テーマの決定
9. 調査法について
10. 中間発表1～研究テーマと論文構成～
11. 中間発表2～研究テーマと論文構成～
12. 中間発表3～研究テーマと論文構成～
13. 中間発表4～研究テーマと論文構成～
14. 論文執筆指導1
15. 論文執筆指導2
16. 論文執筆指導3
17. 論文執筆指導4
18. 論文執筆指導5
19. 論文執筆指導6
20. 論文執筆指導7
21. 論文執筆指導8
22. 論文執筆指導9
23. 論文執筆指導10
24. 最終発表1
25. 最終発表2
26. 研究報告書の作成1
27. 研究報告書の作成2
28. 研究報告書の作成3
29. 特別研究発表会1
30. 特別研究発表会2

特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり

準備学習（予習・復習等）

生涯学習に関する各自治体や機関の取り組みの情報を探しておく。また自分の特別研究テーマに関する文献や先行研究を毎週、レジュメにまとめて提出すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

調査への取り組み姿勢40%、論文50%、授業への積極的参加態度10%

教科書

香川正弘・鈴木真理編『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房(2015年)

参考文献

その都度、各自の研究テーマに合わせて紹介する。

特別研究

概要

法学に関する研究を行う。法学という難しくて遠い学問のように思われがちだが、実は「よくある出来事」に関わっていることが多く、非常に身近な学問である。その「よくある出来事」は普通の人の感情や欲が原因となっているため、具体的な事案を論理的に議論するだけでなく、心で感じてもらいたいと思う。そして、様々な事案の中から自分の心のアンテナに引っかかったことを是非とも研究テーマに選んでほしい。各自の個性を大切にしつつ、短期大学で学んだ集大成となる論文が執筆できるよう、丁寧に指導していく。
*テーマは、人権問題、家族法の問題、犯罪に関する問題など、法学全体から選択できる

担当教員	元井 貴子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

- ・法律問題を具体的・感覚的に捉えることができるようになる
- ・判例を理解できるようになる
- ・プレゼンテーションや発表を通じて、自分の言いたいことをまとめ、表現し、他人に伝えることができるようになる
- ・論文の作成を通じて、文献や判例を使って法知識につき調査し、自己の理解を深めた上で、文章にまとめることができるようになる

各回の内容

1. 前期オリエンテーション
2. 論文について
3. 判例の重要性
4. 調査・研究(1)
5. 調査・研究(2)
6. 調査・研究(3)
7. 調査・研究(4)
8. 調査・研究(5)
9. 研究テーマの決定
10. 研究計画作成(1)
11. 研究計画作成(2)
12. 研究計画のプレゼンテーション準備(1)
13. 研究計画のプレゼンテーション準備(2)
14. 研究計画のプレゼンテーション
15. 研究計画のプレゼンテーション
16. 後期オリエンテーション・夏季休暇中の研究報告
17. 研究計画再検討
18. 論文作成指導(1)
19. 論文作成指導(2)
20. 論文作成指導(3)
21. 論文作成指導(4)
22. 中間発表
23. 中間発表
24. 論文作成指導(5)
25. 論文作成指導(6)
26. 論文作成指導(7)
27. 論文作成指導(8)
28. 最終発表の準備
29. 最終発表(1)
30. 最終発表(2)

特別研究

準備学習（予習・復習等）

- ・講義で扱った法律問題につき各自で調査すること
- ・研究テーマの選定や研究の実践として各自、文献等にあたること
- ・ニュースや新聞等の報道に触れ、研究テーマに関わるものがないか目を配ること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

論文（論文の構成・内容、表現力など）60%
提出物・発表20%
授業貢献度・態度 20%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション

概要

各自の主體的な関心に基づき、対人関係、メンタルヘルス、グループファシリテーション等をテーマとした研究を遂行する。心理学の知見に基づいた学術的な調査、文献読解、ディスカッション、および論文作成を通して、自己と世界を客観的に再考する能力の習得を目指す。

担当教員	後藤真
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

自己、他者、世界との「つながり」と「関係性」に着目し、現実社会における様々な課題を学問的に考察する力を培う。またクラスディスカッションを通して相互に研鑽し、内的気づきに基づく学び合いのスキルを獲得する。

各回の内容

1. 前期オリエンテーション
2. 概説：論文について
3. 文献読解1
4. 文献読解2
5. 文献読解3
6. 研究調査計画予備プレゼンテーション
7. 研究調査計画予備プレゼンテーション
8. 調査研究1
9. 調査研究2
10. 調査研究3
11. 調査研究4
12. 調査研究5
13. 研究調査計画プレゼンテーション
14. 研究調査計画プレゼンテーション
15. 総合ディスカッション
16. 後期オリエンテーション
17. 論文作成・個別指導1
18. 論文作成・個別指導2
19. 中間ディスカッション
20. 論文作成・個別指導3
21. 論文作成・個別指導4
22. 論文作成・個別指導5
23. 論文作成・個別指導6
24. 論文作成・個別指導7
25. 論文作成・個別指導8
26. 論文作成・個別指導9
27. 総合ディスカッション
28. 最終発表 1
29. 最終発表 2
30. 最終発表 3

特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション

準備学習（予習・復習等）

関連する文献や資料を主体的に検索し、理解した内容を要約して記録すること。また、クラスディスカッションには積極的に参画し、自己だけでなく他者の学びにも貢献することが求められる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

論文50%、クラスディスカッションへの貢献30%、プレゼンテーション20%を総合的に評価する。

教科書

必要に応じ演習内にて資料等を配布する。

参考文献

各自の研究テーマに応じ演習内にて指示する。

特別研究 99%英語での研究

概要

This course will focus on conducting original research and presenting a strong opinion on a topic that is important to the student. Active discussion about various issues will occur. Writing skills in English will also be taught and practiced extensively. This class will be conducted in all English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

Students will be able to express their opinion in English.
Learners will understand how to conduct original research.
Students will know how to present their findings in a comprehensible fashion.

各回の内容

1. Introduction
2. Thesis Statements
3. Thesis Statements
4. Making Strong Opinions
5. Making Strong Opinions
6. Supporting Your Ideas
7. Supporting Your Ideas
8. Connecting Your Thoughts
9. Connecting Your Thoughts
10. Writing an Outline
11. Writing an Outline
12. Developing Your Outline
13. Developing Your Outline
14. Developing Your Research
15. Developing Your Research
16. After Summer Discussion
17. Individual Work
18. Individual Work
19. Individual Work
20. Individual Work
21. Individual Work
22. Individual Work
23. Individual Work
24. Individual Work
25. Individual Work
26. Individual Work
27. Citations in Your Paper
28. Reference Page Writing
29. Final Thesis Presentations
30. Final Thesis Deadline

特別研究 99%英語での研究

準備学習（予習・復習等）

Take the initiative to research your topic on your own.

Present your findings weekly to the instructor.

Participate actively in the in-class discussions and activities.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

Final thesis 50%, Weekly assignments 20%,

In-class work 20%, Class participation 10%

教科書

参考文献